

追跡

— あの質問のゆくえ —

エネルギープロジェクトへの取り組みは

小水力発電を含めたエネルギープロジェクトへの取り組みとはどのようなものか 平成25年3月
小水力発電の実証実験結果をどのように分析しているのか 平成26年9月

所管
答弁

実用化に向けては課題が多い

深山大堰で小水力発電実証実験として最上川環境技術研究所の機械を使って、1年をめどに電力量や水量のデータを取る予定。

平成25年3月

当初、0.5kWほどの能力を期待していたが、結果としては0.15kWで、蛍光灯32ワット4本分程度の発電量になっている。

実用化に向けては安定した水量の確保と、効率的な発電装置が必要と考えている。

平成26年9月



実用化に期待して

どうなった

年間を通した取水量は0.03~0.04m³/s、発電量は0.03~0.04kWというデータとなりました。

ただし、豪雨災害の影響で流出した土砂や、落葉が水路・機械に詰まり計測ができない状態に陥ったことや、冬期間に著しく水量が減るなどし、年間を通して安定した水量を維持し続けられないこともありました。

このように、自然エネルギーを活用した発電には、天候をはじめとした環境から受ける影響を十分考慮する必要があることや、安定した水量の確保、発電設備の周辺環境整備、設備投資に対する発電量など、実用化に向けては様々な課題があることから、今後の取り組みに活かしていきたいと考えております。

事業の検証と評価

東日本大震災以降のエネルギー需給政策の見直しにより、再生可能エネルギーの導入拡大が模索され、小水力発電についても先進的な事例が書籍、マスコミ等でも数多く紹介された。事業に取り組むにあたり、この度の実証実験での課題はある程度想定できたものもあると思われる。

本町は、特に西山からの水量は豊富で貴重なエネルギー源であることから、今後の導入に向けて期待する。

